

ラオスに24億円余の無償資金協力へ

日本政府はラオスに対し、次の2件の無償資金協力を実施することを決定し、5月9日に岸野駐ラオス大使とストーン・サイニャチャック外務副大臣の間で交換公文が署名され、5月19日に武井JICAラオス事務所長と計画投資省国際協力局シソンブン・オナボン局長との間で贈与契約への署名が行われました。



(1) 「国道16B号線セコン橋建設計画(Project for Construction of Sekong Bridge on NR16B in the Southern Region of Laos)」(供与限度額:21億9,700万円) ベトナムにつながる国道の一部として、セコン川に橋梁を建設することにより、安定的な交通の確保を図り、国際物流の活性化、周辺地域の経済発展及び沿線住民の利便性の向上を図るものです。

(2) 「人材育成奨学計画(the Project for Human Resource Development Scholarship)」(供与限度額:2億5,700万円) ラオスの将来を担う若手行政官等を対象に、日本に留学するために必要な学費等を供与するものです。

政策協議の実施

6月9日、ラオス政府と日本政府の対話の場である政策協議が開催されました。ラオス側は計画投資省の国際協力局長をヘッドに関係省庁またJICA専門家が参加しました。また、日本側は外務省ラオス国担当課長をヘッドに、経産省、財務省、また大使館、JICA事務所関係者も参加しました。

主に、ラオス側からは、マクロ経済状況及び中期見通し、財政収支の見通し、債務管理状況や第8次国家経済開発5カ年計画の検討状況について説明がありました。日本側からはODAを巡る日本の国内情勢、我が国の対ラオス援助の基本的考え方について説明を行いました。

要望調査キックオフミーティング

5月21日、計画投資省において、2014年度要望調査のキックオフミーティングが開かれました。ラオス側からマクロ経済状況にかかる説明が行われるとともに、日本側からは昨年度要望調査結果報告及び今年度要望調査での重点分野やスケジュールについて説明を行いました。

ラオス側からプレアプリケーションの締め切りは6月30日、その後スクリーニングを経て、正式要請書は8月15日までに日本側へ正式に提出することになっています(各省からMPIへの提出締切は8月5日)。8月末に予定されている政策協議(クロージング)において今年度要望調査の要請案件を日本につなぐこととなります。

>>>News Update

「ちゃーがんじゅー学校・地域歯科保健プロジェクト」

2014年5月30日、ビエンチャン市ドンサバ小学校で国際子供デーのイベントが行われました。当イベントはシサタナーク郡教育局の主催で郡病院などがブースを出展し、お口の健康を推進する草の根技術協力事業「ちゃーがんじゅー学校・地域歯科保健プロジェクト※」も会場にブースを設け、「子どもの日デンタルフェスティバル」を開催しました。検診にはプロジェクト対象校の学童を含む125名の児童が保護者とともにブースを訪れ、歯科検診を受けました。中には泣く子もいましたが、カウンターパートであるセタティラート病院の歯科医や、琉球大学の専門家にお口の健康をチェックしてもらい、保護者の歯の健康の大切さへの理解が進んだことが伺えました。



また、当日行われた式典ではプロジェクト対象校に設置する水道施設設備費等の贈与式も行われました。

※ラオス国シサタナーク郡における「ちゃーがんじゅー(いつまでも健康)」学校・地域歯科保健プロジェクト(実施期間2012年9月～2017年9月)。国立大学琉球大学が実施するプロジェクトで、予防歯科の普及・啓発によりシサタナーク郡の対象校10校の学童のう蝕罹患率が大幅に低下し、さらに歯磨き等による口腔衛生状態の改善が地域レベルに拡大され、その効果が確認されること、また、その成果を基に有効な歯科保健衛生の仕組みが構築されることを目指しています。

草の根技術協力 :新しいプロジェクトが始まりました。

草の根協力事業地域経済活性化枠「青少年の収入向上のための木工職業訓練」(埼玉県提案・IV-Japan実施)が3月に開始しました。IV-Japanは現在草の根技術協力パートナー型「短期職業訓練トレーナー育成のための職業訓練プロジェクト」で理美容・調理の職業訓練を実施しています。また木工職業分野でもビエンチャン市教育局と協働し2001年から行っていた木工職業訓練初級・中級コースを、2008年に設備ごとNFEDC(学校制度外教育開発センター)内に移管し、以降当センターにて初級木工職業訓練を毎年実施しています。

本案件のカウンターパートとなるNFEDCは、定職がなく職業訓練をうける意思がある15-40歳の青少年を対象に職業訓練を実施していますが、予算や設備に乏しく、ラオス国内の木工業界でも、当センターの木工職業訓練修了者を受入れたいという需要はあるものの、このニーズにこたえる人材の養成まで十分な訓練を受けることができない状況です。本案件でNFEDC側は、訓練所の提供や専任職員の配置、訓練生募集など関連現地業務への全面的協力を約束し、NFEDC木工職業訓練部門の自立運営、職業訓練生の就職・就業の促進、木工業の品質や生産性の向上を目指しています。長年の職業訓練のノウハウを持つIV-Japanと組むことで効果的で着実な職業訓練の実施が期待されます。また、地域経済活性化枠という観点では、ものづくり大学等の埼玉県教育機関と連携して、専門家派遣や研修の受け入れを通じラオス木工業界との関係構築を図り、埼玉県産木工家具の販路拡大の足掛かりとすることも期待されています。

>>>News Update

健康管理室より 「やる気スイッチ」の入れ方と、休養の勧め

脳の覚醒度ピークは正午少し前と午後6～7時頃の2回あります。1日2度のピークを逃さず賢く脳を使って効率よく一日を過ごす方法をご案内します。また、仕事、パソコン、人間関係等でお疲れ気味の方は、ご自身の生活、オフの時間の過ごし方を見直してみましょ。時には、ご家族やご友人とお出掛けになりリフレッシュして、また日常に戻るといったメリハリをつければ心と体の疲労も回復します。

[朝]・毎日の起床時間を決める

- ・起床後、まずカーテンを開け太陽の光を浴びる
- ・朝食でカラダを覚醒させる
- ・新聞を読むときは音読で

[昼]・まずデスクを片付け、簡単な作業を行う

- ・50分仕事をしたら10分休憩する
- ・大事な仕事は昼メシ前に済ませる
- ・その日食べたいものはランチで頂く
- ・2度目のピークは、自分のために使う

[夜]・その日の成功も失敗も周りの評価に踊らされず自

分だけのものと考える

- ・仕事を家に持ち帰らない
- ・眠る前に、ぼんやり本を眺める程度の‘いい加減な勉強’をする
- ・睡眠は6時間以上を確保する

[休日]・手を動かす趣味を持つ

- ・仕事と無関係のコミュニティに参加する
- ・ITをシャットアウトする

出版物のご案内

鈴木専門家（計画投資省）が座長をされているラオス開発援助研究会の成果をまとめた出版物第二弾のお知らせです。今回は「ラオスの開発課題」というタイトルで、ラオスの労働問題、ガバナンス改革、保健医療、司法制度、腐敗対策、貿易、ITサービス、水資源、土地利用政策といった幅ひろい内容となっています。ご希望の方はお声掛け下さい。

(お問い合わせ先：JICAラオス事務所 平藤)



ラオス生活のコラム

「赤米」

雨の多い季節になってきました。こんな季節に注意しなければいけないのは食べ物の保存です。こんなとき、私はご飯にいくらか「赤米」を入れて炊くようにしています。色は綺麗で風味もいい、そして何より腐りにくくなります。

ご飯が炊きあがったところで、日本人はしゃもじでご飯に空気を入れて混ぜますが、それをしないほうが長持ちするんですよ。

(総務班 黒田)

おことわり

本ニュースレターはJICAラオス関係者を対象としたものであり、JICAラオスの活動内容及びニュースの共有を目的とし、約3ヶ月に1度を目処に発刊していく予定です。ご意見・ご質問は事務所総務・広報班までお願いします。

(担当:木村、浅野)